

事業報告書（令和5年度）

事業名 介護についての正しい知識を広げるための普及・啓発事業

団体名 社会福祉法人藤花会

担当者名 杉山

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

●6月14日 新見高校にて 新見高校1・2年生 39人

福祉業界の仕事の説明（45分授業×2コマ）

進路選択の前準備ということで、高齢者に限らず福祉業界の仕事の説明を行った。

「福祉というと、高齢者介護のことだと思っていたけれど、保育や障害といった領域も福祉であると知った」「介護に馴染みがなく、おじいちゃんやおばあちゃんのお世話をする仕事だと思っていた。人が亡くなることもあると聞いて、それでも介護を続ける介護職員さんはすごいと思った」などの感想が聞かれた。



※Instagramで活動報告を公開 @tohkakai_smile

●7月19日 就実大学にて 初等教育学科1年生 53人

福祉紹介キャンペーン活動 in 就実大学（90分授業×2コマ）

保育士を目指す学生ではあるが、広く福祉業界を知っていただくことを目的に、高齢・障害・児童・社協それぞれの領域から登壇して業界の魅力や仕事について説明した。

「介護というと『個室の中で寝ている老人』というイメージだったので、『笑顔』などのキーワードが出てくるのは予想外だった」「高齢者を募集するためには、その子ども世代にアピールすると知り、驚いた」などの感想が聞かれた。



就実大学でお仕事紹介！

●7月25日～27日 藤花会にて 邑久高校2年生 1人
介護の仕事インターンシップ

将来的な職業選択として介護を検討している生徒に対し、介護の現場を知っていただくことを目的とし、高齢者とのコミュニケーションの他、買い物の手伝い、エコバッグへのシール貼り、カレンダーづくりなどを体験してもらった。

また、職員へのヒアリングで「なぜ介護の仕事を選んだのか」「仕事とプライベートの両立をどのように図っているのか」を尋ねてもらうことで、「仕事をする事」を具体的に捉えてもらうこととした。

「楽しかった。誰かの役に立ちたいからという理由で介護の仕事を選んだ方がいて、すごいなと思った」といった感想が聞かれた。



インターンシップ生が活躍！



●8月2日～3日 岡山コンベンションセンターにて

おokayama SDGs フェアにて介護離職抑制のための展示 来場者数 4800 名 (延べ)
ご利用者様が作成したエコバッグを展示し、作成の様子を動画で見てもらった。
「おじいちゃんやおばあちゃんにもできる SDGs があってすごいと思った」「親が藤花会に入所しているが、こういった活動をしていると知り驚いた」「リハビリを兼ねていていいですね、大切に使います」などの感想が聞かれた。
また、企業の介護離職抑制に関する展示に関しては、「私も介護離職をした身なので、藤花会には頑張ってもらいたい」「介護は家庭の問題だと思っていた、言われてみれば社会の課題ですね」「今の時代に考えなければならぬことだと感じた」といった感想が聞かれた。



●8 月～9 月 藤花会にて ESD 学生インターンシップ 1 名

老人ホームの社会的意義を学ぶ

大学生 1 名参加してくれた。参加動機は社会福祉士として社会でどのように活躍できるか知りたい、といったものであった。在宅、入居、それぞれの現場で介護の仕事の他、生活相談員の仕事を体験してもらった。

また SDGs カード (瀬戸内市版) を用いて、地域の中の福祉課題を解決しうるアイデアを、実習生と共に考え、瀬戸内市に提案した。



●8月 藤花会にて 上南中学校1年生他 10名
施設でのボランティア活動

夏休み中の地域活動場所として、ボランティアを受け入れることとした。高齢者と話すことに自信がない、といった生徒には、ヒマワリの水やりや刈り取りといった屋外作業を依頼し、老人ホームの中に入りたい、という生徒にはタオルたたみや清掃を依頼した。屋外作業を依頼した生徒にも、ご利用者様にヒマワリをお渡しする、という理由で施設内を案内することとした。

慣れない環境のためか、挨拶ができない、返事ができない生徒もいたが、終盤には笑顔が見え、ご利用者様とも会話ができるようになっていた。保護者と一緒に参加した生徒もあり、やり方を教えてもらうなど工夫しながら作業をしてくれていた。

終了後は「途中から楽しくなった」「もっと〇〇をしてみればよかった」などの感想が聞かれた。

ご利用者様が「こっちで一緒にやりましょう」と声をかけ、タオルのたたみ方を教えてあげたり、施設での暮らしやこれまでの人生を話して聞かせてあげる場面もあった。



●8月30日 岡山コンベンションセンターにて

中国地区老人福祉協議会職員研究発表会 60名程度

発表「せとうちの郷の地域共生」「社会課題『介護離職』と向き合う」

ご利用者様が作成したエコバッグ（SDGs3,12）の紹介と、子ども食堂立ち上げまでをプレゼンする。

介護離職の課題を解消するため、福祉業界と企業とのパートナーシップ（SDGs目標17）を結ぶことが有効ではないか、と提言する。11月に岐阜県で開催される同会全国大会に推薦される運びとなる。



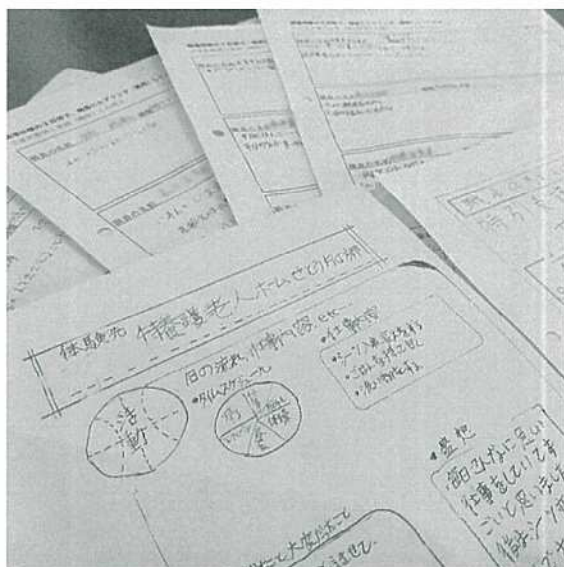
●11月 藤花会にて 岡北中学校・西大寺中学校 計3名

職場体験学習

介護度の低いフロア、高いフロアに入ってもらい、関わり方の違いを体験してもらった。「元気な人が多いフロア、寝たきり人が多いフロアなど、特色があると思った」「家族に勧めら

(様式第8号)

れて介護の仕事をするようになった、というのはすごいと思った」など感想が聞かれた。



※広報 NG のため、本人の写真なし

●11月30日 長良川国際会議場（岐阜県岐阜市）にて

全国老人福祉施設大会・研究会議 200名程度

発表「ビジネスで捉えた介護離職」

8月同様、介護離職の課題を解消するため、福祉業界と企業とのパートナーシップ（SDGs目標17）を結ぶことが有効ではないか、と提言する。おかやまSDGsフェアへの参加や企業へのアプローチ等、アウトリーチの実績が評価され、奨励賞をいただく。



●1月18日 おかやま信用金庫西大寺支店にて ライオンズクラブ会員およそ30名

講演「企業の介護離職を防ぐために ～社会インフラとしての老人ホーム～」

地元西大寺のライオンズクラブにて上記表題で講演する。その中で、エコバッグ作成の動

画を紹介すると、「輪になって歌を歌わされるような、幼稚園児のような扱いをされる老人ホームは嫌だと思っている。入所しても社会の一員でいられるような支援をする施設が増えてほしいと思った」などの感想が聞かれた。

※写真なし

●1月27日 藤花会にて 多職種協働ケアを学ぶインターンシップ 1名

子ども食堂の運営や、高齢者介護の現場を体験する。

参加者は、将来的に子どもの領域の就業を希望している高校生であり、子どもとの関わり方を学ぶことを目的に参加した。調理や販売の他、子ども達の遊びコーナーで補助的な仕事を体験してもらった。終了後は介護フロアに入り、高齢者とコミュニケーションを体験してもらった。

他団体のインターンシップにも参加予定とのことなので、次の機会へのアドバイスをお伝えした。



※広報 NG のため、本人の写真なし

2. ESD の視点

①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

中学生:初めて老人ホームに来た、という生徒が多かった。初めは挨拶や返事ができない方もいたが、職場体験やボランティアを通じて、会話ができるようになり、笑顔が見られるようになった。職員へのインタビューを通じて「働く」ことを考える機会になったと思われる。

高校生:人によっては「聞いたからこそ、体験したからこそ、自分の進路とは違うと思った」という生徒もいたのではないかと。選択を含めて社会教育であったと思われる。また、次回のインターンシップ参加時の注意点をフィードバックし、社会人としてのマナーをお伝えできた。

大学生：おかやま SDGs フェアに参加していた大学生より、「介護のイメージが変わった」という感想があった。また、就実大学の学生からは、「介護職員以外の仕事を知ることができた」などの感想がよせられた。「老人ホーム」「介護」に対してネガティブなイメージがあったようだが、話を聞くことで、見ることで、それが一面的な思い込みであったことに気づいたようである。

ビジネスパーソン：これからの時代、従業員の介護離職に向き合わなくてはならない、と気付いたと思われる。しかし、認知度が低いため、積極的に興味をもつ方は少ないと思われる。

施設職員：中高生に対して自分の仕事観を語ることで、介護の仕事の社会的意義を再確認することができた。

ご利用者様：中高生が施設に来ることで、自身が「お世話をしてあげる立場」「配慮をしてあげる立場」として、役割意識を持っていただけた。タオルのたたみ方を教えてあげたり、自身の経験を話して教えてあげたり、「また来てね」と声掛けをしてくださるなどの様子が多々見られた。

②どのように学び合いを取り入れたか

SDGs カードゲーム（瀬戸内市版）では、インターンシップ生のみならず介護の実習生も参加してもらうことで、価値観の違いやお互いのアイデアを認め合う経験ができた。とくに、実習生に外国人がいたため、文化の違い、課題への認識の違いなどを知ることができた。

職場体験では、中学生に職員へのヒアリングを依頼した。その内容を発表し合うことで、自分がいいと思った点、他の人がいいと思った点を学び合うことができた。

就実大学では、90分のグループワークを行い、グループ内の意見の出し合い、別の視点で盛り上がったという別グループの発表を聞くことができた。高齢・障害・保育・社協と、多様な分野の価値観を学んでもらうことができた。

③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

SDGs カードゲーム（瀬戸内市版）では、アイデアを瀬戸内市に提案した。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

介護離職の抑制：SDGs フェアやライオンズクラブでは、企業向け、ビジネスパーソン向けに課題を伝えられた。しかし、離職理由の中で介護離職の割合が少ないこと、国のガイドライン発表が次年度以降であることから、切迫した課題として受け止めていただくことに

はならなかった。

活動の成果をパートナー企業の数量で図る予定であった。実績は0である。

介護についての正しい知識を広げる：SDGs フェア等でご利用者様によるエコバッグ作成動画を紹介した。「高齢者になっても、施設を利用するようになっても社会の中で役割がある」「いきいきと作業している」など、「思っていた老人ホームと違った」という反応が見られた。同動画はInstagram等で公開しており、6000回以上再生された。フォロー外へのリーチが伸びたため、認知の拡充に繋がったと思われる。

また、ご利用者様が作成したエコバッグが、他団体の事業（一般社団法人コノヒトカン）とコラボすることができた。

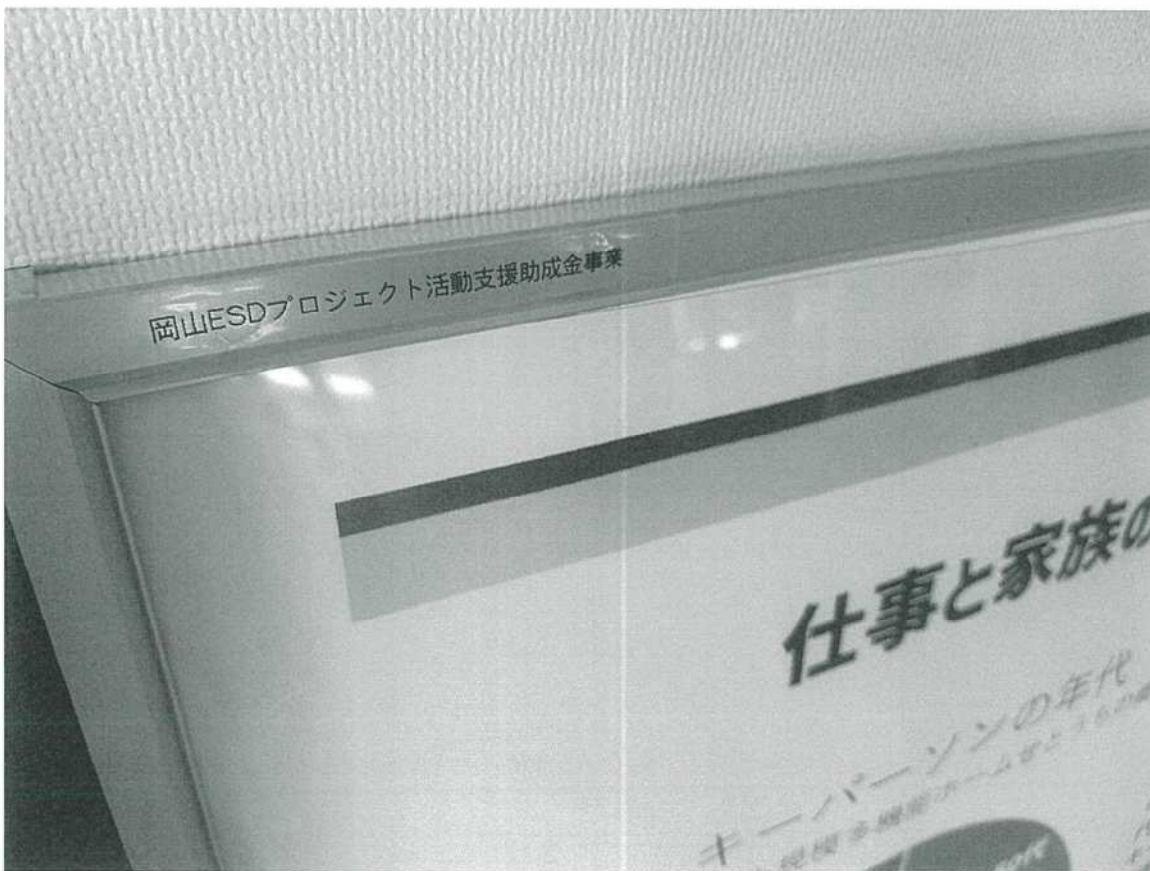
企業に配布される紙袋として利用される予定である。



4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域のESDの取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

介護離職の抑制：地元企業の介護離職が抑制されれば、企業の従業員が確保され、GDPの維持が可能であると思われる。（SDGs 目標8）

次年度以降も、中高生、大学生を職場体験やインターンシップ生として受入れたい。私たちの取り組みを通じ、介護や福祉の業界に就職してもらえればうれしいが、他業種であったとしても、社会に出て働くことを選択していただくよう支援したい。



作成したパネル（一部）